

わくわく学びの街・下関

下関市教育委員会 生涯学習課
社会教育主事だより
令和6年9月6日



社会教育委員会定例会



8月26日(月)社会教育委員会定例会を開催しました。生涯学習課、文化財保護課、中央図書館、美術館、歴史博物館・東行記念館、豊田ホテルの里ミュージアムによる主要事業の報告等を前半に行い、後半は、

「これからの下関市(学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」)の在り方について意見交換を行いました。県主催の社会教育・家庭教育講座を受講し、地域課題と子供たちの育成に取り組む社会教育委員のお話を契機に、どのように社会教育人材を育てればよいか話題の中心になりました。更に学校教育との連携や、オンラインを活用して地域を超えた学びの場の必要性等、熱心な議論が展開されました。少子高齢化・核家族の増加・関係性の希薄化等、社会・地域課題が山積する中、学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくりを行う社会教育の必要性を再確認する場になりました。

「社会教育」についての意見交換

ウェルビーイングの実現

ウェルビーイング:「個人」の幸せ+ 周囲の「場」のよい状態

<生涯学習>

「個人」の生涯にわたる自己実現を図る学習

<社会教育>

学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」

生涯学習を通じた個人の成長と、持続的な地域コミュニティを支える社会教育は、ウェルビーイングの実現に密接不可分

意見交換では、別添の「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理【概要】」を活用して話し合いを進めました。

昨年度は、左側の「生涯学習」について、今年度は、右側の「社会教育」について意見交換をしました。

【社会教育委員の意見の紹介】



次の世代にどんどん連なっていく人を育てていかなければいけない。社会教育行政に関わるものとして、そういう人を意図的に育てていきたい。

「ふるさとが大好き、下関市が大好きだよ」ということを、子供たちにも意識づける視点で教育していくことが重要だと思います。



これまでの学びの場は、公民館を中心として各地域で行われてきた。オンラインを活用すれば、地域に限定されず、どこからでも双方向に学びあう環境をつくるのが可能になるのではないか。